

カトリック 仙台教区報

2003年8月24日 No.153

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

今、仙台教区が行おうとしていること

仙台教区 司教 溝部 脩

私が仙台教区に赴任してよ
うやく3年になります。手探り
の状態、多くの人々の助けを
お借りして、どうにか3年を過
ごしました。この3年間でまず
司祭評議会、司牧評議会と財政
問題評議会をたちあげなけれ
ばなりませんでし
た。このために一年
の月日が必要でし
た。ついで、その評
議会を通して教区
の優先課題に取り
組む作業が待つて
いました。優先課題
を取り上げるまで
に更に一年がかか
つてしまいました。
3年目に入り、やつ
と幾つかの優先課
題に取り組むべく動きだしま
した。課題を羅列してみましょ
う。

う根本的問題提起と司祭の本質的
役割は何であるかという大事な問
いかけにもなりました。司祭と信
徒の関係、今後の教会のあるべき
姿など大事な問題が扱われていま
す。

(司祭の派遣) 他の面は、



将来の司祭数を考える時に現状の
ままを続けるのは困難だというこ
とです。どこに重点的に司祭を派
遣するか、よりよく教会と社会に
奉仕できる司祭の派遣のあり方は
何かということでは

(信徒と司祭の関係)

将来の司祭数を考える時に現状の
ままを続けるのは困難だというこ
とです。どこに重点的に司祭を派
遣するか、よりよく教会と社会に
奉仕できる司祭の派遣のあり方は
何かということでは

(信徒の典礼参加)

信徒の
典礼の
参加の
問題で
す。特
に「司
祭不在
の主日
の集会
祭儀」と
「聖体
奉仕
職」につ
いてです
。これに
関して
は、はや
実施され
ていると
ころ、

信徒の
典礼の
参加の
問題で
す。特
に「司
祭不在
の主日
の集会
祭儀」と
「聖体
奉仕
職」につ
いてです
。これに
関して
は、はや
実施され
ていると
ころ、

信徒の
典礼の
参加の
問題で
す。特
に「司
祭不在
の主日
の集会
祭儀」と
「聖体
奉仕
職」につ
いてです
。これに
関して
は、はや
実施され
ていると
ころ、

信徒の
典礼の
参加の
問題で
す。特
に「司
祭不在
の主日
の集会
祭儀」と
「聖体
奉仕
職」につ
いてです
。これに
関して
は、はや
実施され
ていると
ころ、

信徒の
典礼の
参加の
問題で
す。特
に「司
祭不在
の主日
の集会
祭儀」と
「聖体
奉仕
職」につ
いてです
。これに
関して
は、はや
実施され
ていると
ころ、

されていないところとばら
つきがあります。またその
方法に關しても少し混乱が
見られます。従って教区と
しての指針を作成中です。

ひいては信徒が教会の運営や活動
また典礼に参加する必要性が問わ
れています。

(人権問題への取り組み)

教会は人権や平和の問題に敏感です
仙台教区においても種々の試みが
今までなされました。しかし、総
合的にこの問題に教区として取
り組むところにまで到っていま
せん。日本滞在外国人のこと、声
をあげることができない精神的、
物的に貧しい人のこと、教会内外
での人権の侵害に關しての対策
など、やるべき課題が山積してお
ります。

(青少年司牧)

将来の教区
を考える時、どうしても青少年活
動の活性化が求められます。いか
にそれを推進していくかという
大きな課題が、今教区にはのしか
かっています。これと関連して司
祭、修道者の召命促進という課題
も残されています。

(青少年司牧)

これら以外に課題はたくさんあ
ります。優先課題として以上の5
点に重点的に力をいれるつもりで
す。課題が困難であってもひるむ
ことなく、果敢に挑戦していくな
らば、きっと明るい将来が見えて
くるはずで

【写真は二本松教会のマリア像】

「互いに愛し合うならば、
それによってあなたたちが
わたしの弟子であること
とを、皆が知るようになる」
(ヨハネ13、15)。最
後の晩餐の席上でイエス
は、弟子であることの最も基本的
な資質について強調なさいました。
しかも、これこそ「新しい掟」に他
なりません。なぜなら神の独り子
イエスがそれまでにはなかった全
く新しい方法で神の愛を示された
からです。ですから、この新しい
愛の最高の模範と基準はイエスの
愛し方以外にはありません。「地
の塩であり世の光」(マタイ5、
13・14参照)であるわたしたちは、
この愛の掟を誰よりも忠実に実践
することによって神の国の味つけ
をし、神の愛の光を照らし出せば
よいのです。「キリストの体であ
る」(「リント12、27参照)教会
のしるしは、この愛です。しかも、
「体の中で他よりも弱く見える部
分がかえって必要なのです。神は、
見劣りする部分をいつそう引き立
たせて、体を組み立てられました。
それで、体に分裂が起こらず、各
部分が互いに配慮しあっています。
そして苦しみを分かち合います」
(「リント12、22・24・25)この
様に、多様性の一致を育てること
こそがその特徴なのです。(博)

塩と光

「今、新生の時に、原点を求めて」 カトリック宮城県大会 in 岩沼

7月6日、第31回カトリック宮城県大会が岩沼市民会館において開催された。「今、新生の時に、原点を求めて」をテーマに、およそ500名の信徒が希望を抱いて集まった。

2003年の仙台教区は、新題「現代より見たキリシタン時代」の集會祭儀（講演要旨3ページ）を聴く。

今大会は、前々回の東北地区に続いて、仙台市を離れ県南地区の開催となった。

県南地区4教会(白石・亘理・大河原・角田)の司祭、信徒の努力により、大会は順調に運営された。

聖歌「ガリラヤの風かおる丘で」の歌で始まり、司会井口巖氏(大河原教会)、手話通訳(南條伸義、設楽滝子、長尾雅子、高橋恵美)の各氏が奉仕。冒頭、大会会長伊藤雄基氏(宮城県信徒連絡協議会会長)が挨拶。その中で第2バチカン公會議の「現代社会に開かれた教会」について触れ、内向きの組織ばかりに終始せず、小教区間の連携と協力が必要と話された。

続いて溝部脩司教の講演。演



講演の後アトラクションに移る。大河原町「つくしの会児童合唱団」の美しい聖歌が会場に響き、安らぎのひと時となった。昼食をはさみ午後から溝部司教と宮城県担当の司祭による共同司式のミサが捧げられた。村

首神父は「人は目的を持って集まる。この大会で何を得たかは、十年二十年先にこの大会を振り返ったとき、2003年のこの日から、私たちの態度が変わっていたならば、今日の大会の意義がある」と説教を結ばれた。改めて県南地区の皆様へ感謝しつつ、来年の再会を約し、信徒大会を終えた。

カトリック宮城県大会を
振り返って
県南地区実行委員 目黒 齋

カトリック宮城県大会も無事終わり、今はホッと一息ついているところです。大会も31回目を迎えたというのに、開催地は毎回このように苦労していたのだと改めて気づかされました。今回の会場は、公共の会館を借りた関係で、経費予算の大部分は、会場費に充てられ、その他の準備は、出来るだけ手作りで賄うことになりました。そのことが却って県南地区教会・信徒の結束を強め、一致協力して準備することが出来たことは、



と工夫必要であったのかなあ...と感じております。又、講演後は、地域での信者の活動を紹介する意味で、児童合唱団「つくしの会」に合唱をお願いしてみました。いかがだったでしょうか。今年の大会で東北、仙塩、県南と宮城県内を一巡したことになりますが、地方で大会を開催する目的は、地方教会の活性化にあるといわれています。その答えが出るのはこれからです。大いに期待しましょう。

大きな収穫となりました。しかしながら、一方で、手話、点字、託児、救護、テープ起こし、仙台ダルクなど、多くの団体から支援を頂きました。大会当日は、雑用に紛れ、お礼も言えませんでしたので、この紙上を借りて厚く御礼申し上げます。大会プログラムは、例年と同じように午前中は、司教様の講演を中心にし、その中に、質疑応答の形で司教様との対話の時間を若干とってみました。が、ひ



「現代より見たキリシタン時代の集会祭儀」 (カトリック宮城県大会司教講演要旨)

教皇ヨハネ・パウロ二世は多くの人々を聖人にあげられてい
るが、それは、価値観が混沌と
している現代社会に教会が漕ぎ
出して行くために聖人が必要だ
からというお考えからである。

第二バチカン公会議によって教
会は大きく変化し
た。組織も変わった。
しかし、変化の中で
何かを忘れている。
それは内部刷新で
ある。それなしでは
組織そのものが崩
壊する。



1614年の宣教師追放令以
降のキリシタン時代、宣教師た
ちは多く殉教し、
教会は指導者を
失ったが、司祭不
在の教会の運営を
「組」が、その指
導者である「談義
者」がよくつとめ

今、仙台教区も多くの問題を
抱えている。司祭・修道者の高
齢化、少子化による青少年の減
少と召命の減少、経済的問題
等々。いまわたしたちは、あら
ためて教会とは何か、司祭と信
徒の役割はそれぞれ何かを真剣
に考えるべき時である。先に年
頭書簡にも述べた通り、司祭は
みことばを信徒に伝え、かれら
を励まし、聖変化や罪の赦し等、
秘跡の執行を通して人々に神の

た。かれらは信者たちの信仰を
高めることによく意をもち、
司祭不在の状況にあつて、共同
体をまとめ信仰を守ったのであ
る。わたしたちは、キリシタン
時代の組や談義者に学ぶことは
多い。

また、他教区で見られる 協
働・協力を小教区の枠を超えて
考えるとか。信徒の重用、
例えば教区の物的管理だけでな
く、法人の役員・事業の運営に
かわらせること。男女共同
参画社会に対応しての女性の登
用。人権問題への敏感な対応
や 終身助祭制度等、わたした
ちも考えることは多い。

- 宮城県大会司教講話で推薦された図書(文書)
- * 教皇ヨハネ・パウロ二世 使徒的書簡『新千年期の初めに』カトリック中央協議会(¥680)
- * 溝部 脩「どうして今になつて 聖人?」あけぼの 8月号 (¥300)
- * 溝部 脩監修日本188殉教者列福調査歴史委員会編『キリシタン地図を歩く 殉教者の横顔』ドンボスコ社(¥980)
- * 『カトリック教会の教え』カトリック中央協議会(¥2,500)
- * H・チースリク『キリシタンの心』聖母の騎士社(¥1,000)
- * H・チースリク『キリストの証し人』聖母の騎士社(¥500)
- * 高木一雄「東北のキリシタン殉教地に行く」聖母の騎士社(¥1,000)
- * 溝部 脩「マチウス・アダムイの生涯と会津のキリシタン」仙台白百合大学カトリック研究所
- * 溝部 脩「バチカン公会議が終わって40年」仙台教区報152号

<シリーズ> 188名日本殉教者列福の推進 ペトロかすい岐部神父の殉教 溝部 脩

現在、日本の教会は188名の日本殉教者の列福を推進している。188名の略歴とその殉教について連載する。それを通じて殉教者への崇敬と関心が高まることを期待する。

ペトロ岐部は豊後国(大分県)国東半島にある岐部村に1587年ごろ生まれた。関が原の戦いで西軍にくみした大友軍は破れ、その国を失った。岐部一族もそれにつればらばらに散り、ペトロは有馬のセミノリオに送られた。セミノリオ卒業後数年教会で同宿(カテキスタ)をしていたが、徳川家康の禁教令発布とともに1614年マカオへ追放された。マカオで司祭に叙



7年ごろ生まれた。関が原の戦いで西軍にくみした大友軍は破れ、その国を失った。岐部一族もそれにつればらばらに散り、ペトロは有馬のセミノリオに送られた。セミノリオ卒業後数年教会で同宿(カテキスタ)をしていたが、徳川家康の禁教令発布とともに1614年マカオへ追放された。マカオで司祭に叙

階される可能性が少ないのを知り、インドのゴア、更に駱駝の隊商とともにシルクロードを歩き、聖地を訪れ、更にローマまで行った。ローマで司祭に叙階され、イエズス会に入会し、ポルトガルを立、マカオに戻った。しかし日本は迫害が激しく、司祭が日本に潜入するのは容易ではなかった。
シヤムのアユタヤで待機していたが、日本人の可能性がないと分かるや、フィリピンに渡り、ルパンゲ島で船を建造し、同僚の松田神父と共に鹿児島沖まで漕ぎ着けた。長崎は1628年頃より地獄の様相を示しており、そこに働くのは不可能に近かった。岐部神父は東北に宣教の拠点を換え、水沢を中心として信者を訪問し、励まし助けた。島原の乱後幕府は司祭探索に意欲を燃やし、遂に1638年水沢で捉えられた。江戸は小伝馬町の牢に送られ、拷問を受けたが、ついに転ぶことがなかった。逆さつるしの刑にあっても他の同宿を励ますことを止めないので、最初に殺された。1639年7月のことであつた。享年52歳。

松浦悟郎司教ととも に 平和を願う集い

平和旬間（8月6日～15日）に先だつて7月27日（日）午後3時から、仙台カテドラル・元寺小路教会大聖堂において、「平和を願う集い」が、カトリック正義と平和仙台協議会主催、仙台司教区協賛で開催された。

日本カトリック正義と平和協議会会長である松浦悟郎司教（大阪大司教区補佐司教）を迎え、同司教の講演を中心に、第1部「松浦司教の講演と話し合い」、第2部「平和を願うミサ」、第3部「松浦司教と溝部司教を囲んでの懇親会」の順に進められた。

第1部で同司教は、「今、選択のとき！ 平和の道はどこに」と題して次のように話された。

【講演要旨】

私たちが社会問題にかかわるのは、信仰そのものの問題だからである。神の国の完成とは、人と人との関係、イエスが言われたように、互いに愛し合うという人間関係が完成する時である。「これが神の国の完成である。

だから社会問題にかかわるのである。今、私たちは選択の時にいる。日本が大切にしてきた平和の歩みを捨てようとしている。有事



立法が国会を通過し、憲法改正が言われている。私たちは、20年、30年後、子どもたちに何を残すのか。今なら、まだ間に合う。自覚して、選択していく時である。あらゆるものが軍事化と結びついている。今、憲法9条が危うい。憲法9条は福音的である。

教皇来日の時、広島での「平和とアピール」で、「戦争は人間のしわざです」、「人間は戦争もできるが、平和を打ち立てることもできるのだ」とおっしゃった。

日本はアジアの2000万人の死に責任がある。もう二度と戦争をしないことで、償っている。戦争につながる歩みを、今、止めなければならぬ。今の危ない時代と状況の中で、愛の文明を作り出すための選択が必要である。

「平和を願うミサ」

講演の後、質疑応答、それに引き続いて松浦悟郎司教と溝部脩司教他仙台教区で働く司祭たちの共同司式で、2003年度「平和を願うミサ」がさげられた。

まず、溝部司教の松浦司教への感謝の挨拶ののち、聖堂いっぱい信徒とともに、心を一つにして平和のために祈った。

松浦司教は説教の中で、次のように訴えた。「教皇は、『戦争は人間のしわざです。しかし、人間は戦争をすることも、平和を築くこともできる』とおっしゃっている。地雷を埋めることではなく、花を植えることもできる。人間には色々なことが託されている。神の心を表す何かを一人ひとり持っている。共同体にしかない役割もある。神の心を表して愛し合い、神の国

に向かつて歩んで行きたい。」聖体拝領の後、溝部司教の先唱で、平和を脅かすものを、人々の心から遠ざけてください。私たちが真理、正義、愛のあかし人とならせてください」と、「平和の祈り」を心を合わせて祈り、平和のために働く人として派遣の祝福を受け、ミサが終わった。



仙台教区内の各地から集まった信徒、修道者たちが、改めて平和を築いていくことを心に誓った一日となった。

こうして、第3部の懇親会に移り、「平和を願う集い」は幕を閉じた。

ローマ教皇庁教育省局長 ヨゼフ・ピタウ大司教来仙



6月28日（土）、ピタウ大司教（元上智大学学長）が、東北学院大学の招きで来仙。広瀬川殉教碑を訪れ献花、祈りをささげた。

その後、14時30分からラーハウザー記念東北学院礼拝堂にて、特別記念講演と、東北学院大倉松功学長との対話を行った。

演題は「人間形成とキリスト教大学」。講演の中で、ピタウ師は「キリスト教の学校の中心は、チャペルである。また、教職員の中にキリスト教の精神を持った中心（コア）となるグループが必要である。この人たちは、口で教えるのではなく、自身の人生で学生を導くのです。『教育は、捧げる心、思いやる心、ほほえむ心からあふれ出る』ものである。」と話された。さらに、東北学院大学長倉松氏との対談が行われた。

各地から

もの時間（空間・距離）の差が

青森 野辺地教会

早朝7時頃、電話が鳴る。受話器の向うから「今朝、二ワトリが鳴かないのです、心配だから調べた方が」。隣家のやさし



有り簡単には共

同の集まりがもてない。にもかかわらず教会が存在するのは、「いのちは神の業であり、神の賜物です。これは、私たちカトリック教会の揺らぐことのない確信です。」（21世紀への司教団メッセージ）のちへのまなざし」とのメッセージを地域社会の人々に伝える為である。「人とのかわりを大切にしよう」と、教会と幼稚園はいっしょに努力している。

また、近隣の教会の司祭・信徒の協力は「キリスト共同体」として小教区の壁を越えて行われている。特に結婚・葬儀など教会以外の人々を迎えての典礼には、大湊、八戸、青森の司祭や信徒、修道者の方々が応援してください。

もう小さい教会という言い方はやめよう。私たちは、キリストの共同体の一員なのだから。（Fr.高瀬和夫）

(5) 小教会と同じく、信徒の高齢化、司祭の高齢化、地域の壁はない



宮城 西仙台教会

教会のすぐ隣に住み、神父様がいなくなつた後の教会建物管理のお手伝いをお願いしていた豊原さんが、5月をもって引越す事になり、管理体制を見直しております。皆で力を出し合い、相手の身になって話し合う事をモットーに教会を守っております。

この教会の特徴は、東北大学等の外国人留学生が多い事です。集会祭儀で、勤めの言葉の時に、うちの教会では、小グループに分かれてその日の福音書について分かち合いをしておりますが、外国人留学生が積極的に参加する姿を見ると、まさに異文化コミュニケーションの現場に感じます。もちろん、集会祭儀はいやだから来ないという人

もおります。分かち合いの際に基本的に発言を強制しない事にしていますが、それでも圧迫感を感じる人もいます。又、反面、分かち合いのおかげで、様々な信仰のあり方を知ることができ、お互いをより深く認識できたという声もよく聞きます。当教会では、辛抱強く分かち合いを重ねていこうと思っております。（上野）

福島 矢吹教会

矢吹教会五十三年の歩み

白河教会・巡回教会

ドミニコ会のラマル神父が昭和24年に白河教会に着任し

て間もなく、矢吹布教所を開設された。そこは仲西英氏宅で、一部を聖堂として開放してくださった。その後、昭和29年には長尾豊久氏宅の蔵屋敷を借りて聖堂として使用し、昭和35年からは、幕田耕郎氏（現・矢吹町長）宅で塾として使用していた部屋を聖堂として使わせていただいた。昭和40年ころから、再び長尾氏宅をお借りして9年間お世話になった。

その後、グアダルベ会に移り、昭和49年から根本さんの借家でミサを捧げていましたが、ブランドン神父・ロペス神父の呼びかけで現在の場所に黒川潤一氏の尽力により「矢吹教会」が出来、昭和58年に佐藤千敬司教によって献堂式が行われた。敷地150坪、建坪25坪である。

現在、白河教会主任司祭高橋昌神父によって毎月第2日曜日午後2時から「ミサ」が捧げられている。（渡辺）



祈るオヤジの集団を目指して！！
 ネットワーク
 仙台圏カトリック壮年の会(仮称)設立

8月3日(日)、元寺小路教会集會室に、約40名のオヤジたちが集まり、「仙台圏カトリック壮年の会(仮称)」設立総会が開催された。

会の設立趣旨が説明され、活発な討議の後、発起人8名が世話人として承認され、岡田謙一氏(八木山教会)が、世話人代表となった。また、話し合いの中で、共に集い、共に祈り、支え合い、励まし合いながら、学び、交流し、仕え合う活力ある

〔設立の経緯〕

昭和21年8月から昭和32年まで続いた「仙台教区カトリック青年会連盟」の信徒の宣教活動意識を継ぎ、昭和38年1月に発足し四十年間活動してきた「仙塩地区カトリック壮年連盟」も近年次第に活動が低迷し、役割が終わったとの声が高まり、平成14年度にアンケート調査を行い壮年層の意見を集約し、小教区代表制に伴う活動上の制

会を目指して柔軟に活動していく事を確認した。

私の気分転換

岡田謙一(八木山教会)

やっと梅雨が明け、雲間から青空が見えてきた。グレー一色の世界から青と緑の世界へ飛んで行きたい衝動に駆られる。季節の風を吸い込みながら、緑の絨毯の上を友と会話しながら、歩く。誰が何と言おうと、私にとっては幸せを感じるひと時。小さな白い一つの球を目標に向かって打つだけの単純なゲーム、でも



大の大人がはしゃいだり、くやしがりたりする。時には、どうか入りますようにとか、助かってますようにとか、密かに祈ることもある。最近では教会の仲間をお誘いすることが多くなつた。しかし、日曜日はダメよ、緑の絨毯の上での集会は「ミサの代わりにはならないからね。

約と名簿上会員と実活動者の乖離、これらに伴う会員のコミュニケーションや連携の不足、老齡化や時代の変化への追従・対応力の不足などがあげられ解散を決意し、平成15年6月1日総会を最後に解散された。なお同日、新たな会の発起人会を設け、

会員は、各個人の任意参加により構成される。各小教区単位から仙台圏全体を一つの単位とし捉えながら、共同体として小教区および壮年層の連携を模索する。構成人員でも多くを占める壮年層が集まり・祈る。仙台教区の将来を見据えながら、交流や柔軟な意見交換および種々の課題や勉強に自発的に取り組んでいくなどを趣旨として、仙塩地区八教会の壮年信徒に呼び掛け参加者を募り、「仙台圏カトリック壮年の会」を設立することとなった。

活動紹介

レジオマリエ

レジオマリエはキリストのために働く聖母の旗の下に集まった信心団体です。教皇ピオ十一世の時、アイルランドのダブリンで始まり、世界に広がり今も



活躍しています。

仙台教区でも各小教区、カトリック学校などで若い人たちを中心に活動していましたが、現在は、盛岡四ツ家、仙台元寺小路と一本杉の三教会でそれぞれ週一回の集会をしています。会員は80歳から50歳ぐらひまで、活動は日常生活の中で人々との思いやりのある付き合いを心がけ、もちろん可能な会員は施設訪問や介助をやっていきます。会員同士が仲良く長い間続けてこられたのも歴代の指導司祭の温かい応援と賛助会員の祈りの結果であると感謝しています。

私たちは、教会の中に伝えられてきた「マリアを通してイエズスへ」の合い言葉どおり、レ

ジオマリエを続けていきます。集会するときロザリオ一環を唱え、平和のため、教会のために祈ります。皆さんも一緒に祈りと活動に参加してくださいませんか。
 四ツ家教会 水曜日13時30分
 元寺小路教会 火曜日18時30分
 一本杉教会 木曜日13時30分
 右記の通り毎週集会があります。
 (桑原)

計報

聖ウルスラ修道会
 Sr.ジャンヌ・ダイク市川純子
 2003年7月23日帰天(82歳)



Sr.市川純子は、長い修道生活の間、仙台・聖ウルスラ学院小学校や八戸・白菊学園(現聖ウルスラ学院)小学校で教鞭をとり、その後、奈良県・八木カトリック教会に勤務、マリスト会の神父の宣教を手伝つた。1992年2月、脳梗塞に襲われ、その後はほとんどが療養生活の日々。修道生活48年11ヶ月の奉獻生活をまっとうし、神のもとに召された。